

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和元年5月16日

三田市議会議長

様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	田中一良	印 記
		議員名	中田哲	
派遣者氏名	厚地弘行 田中一良 北本節代 佐貫尚子 中田哲			
視 察 先	篠山市			
調査事項 (調査目的)	学校再編			
日 時	平成31年4月16日(火) 13:30~15:00			
視察先対応者	篠山市議会議長 森本富夫 教育委員会部長 稲山悟 教育委員会総務課長 小林康弘 教育委員会教育総務課長 田中真紀子			
添付資料	・ 会派代表者が添付 ・ ・ ・			

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	平成31年4月16日(火) 13:30~15:00
視察先	篠山市
調査事項	学校再編について
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>学校の適正規模・適正配置について長きにわたり、学校の重要課題として議論されてきた。平成14年に『篠山市教育基本構想』が策定され、少子化、小規模化への対応や新しい時代にふさわしい学校づくりの構想が示された。</p> <p>平成20年には『篠山市立小中学校適正配置等審議会』が設置され子供は地域の未来そのものであり教育を最優先しようとの考え方に基づき地域や保護者と話し合いを重ねて地域の合意を得て統合を行ってきた。</p> <p>大まかな流れ</p> <p>平成13年5月『篠山市教育構想検討委員会』設置</p> <p>平成14年2月『篠山市教育構想検討委員会』答申</p> <p>平成14年3月『篠山市教育基本構想』策定学校適正配置盛り込む 小学校 19校⇒13校 地域から強い反発。議論は、いったん停滞。 ⇒少子化が進み地域から再編の議論が再燃</p> <p>平成17年3月『篠山市議会学校適正配置調査特別委員会』設置</p> <p>平成18年2月『篠山市本会議』で委員長報告 小学校 19校⇒7~10校 中学校 5校⇒2校</p> <p>平成20年10月『篠山市立小中学校適正配置等審議会』設置 (有識者・自治会・PTAが参加)</p> <p>平成22年10月『篠山市学校教育改革5か年・10か年計画』答申</p> <p>小学校統合の経緯 平成22年城東地区3小学校統合 平成25年篠山地区2小学校統合 平成28年多紀地区2小学校統合</p> <p>(1) 住民への説明 研究会・準備委員会の設置 構成メンバーが各選出母体の調整を担う。 研究会・準備委員会が市民への説明の場⇒傍聴自由 議事録 HP 公開</p> <p>(2) 議会への対応 地元選出議員は準備委員会に傍聴。</p>	

答申が出た節目に議会全員協議会に説明。条例改正・予算要求の際に説明。

(3) 心がけたこと・2年～3年の歳月をかけ、研究会⇒準備委員会の各段階で協議

- ・事務局が誘導するのではなく、情報提供に徹した。
- ・結論を急がず、じっくりと各委員会で協議いただき結論を託した。
- ・統合を非とする結論が出ててもやむを得ない。

スクールバス⇒市が保有。運行は民間に委託。

教員の配置人数の変化

県費 新学習システム推進加配

平成28年3人⇒平成29年3人⇒平成30年1人⇒平成31年1人

統合校加配 平成28年2人

市費 教育課程支援講師（非常勤）学習支援・心のサポート

施設整備 大規模改修・拡充の必要のない施設を選定し統廃合⇒最低限の補修

- 跡地活用
- ・地域の合同会社やまちづくり協議会がカフェを運営
 - ・西宮市幼稚園の園外保育施設として賃貸 地域と連動
 - ・子供発達支援センター（市保健福祉部管轄）として利用
 - ・グラウンド・体育館は地域のスポーツ拠点

所見

篠山市は三田市に比べて少子化の課題が早くから顕在化しており、そういう意味において近隣の先進地事例として、参考にすべき点が多い。議論の初期段階においては、やはり住民からの強い反発があり、それ以降、篠山市は学校の再編についてはあくまで地域主導で地域が望めば対応するというスタンスに切り替えている。市は情報提供と住民間（地域・PTA）、の調整役に徹している。当初は反発した地域も、少子化が極限まで達し、情報が行き届いた段階で地域が主体的に再編について考える時期が来るという事を、篠山市の事例は示している。大切なのは地域に委ね、十分に時間をかけるという事。そして子供を第一に考えるという事だろう。子供第一でありながら、地域にメリットのある跡地利用、バス利用の在り方を提案できるかが議論をスムーズに進める重要ポイントになる。

三田市における跡地利用は福祉的利用かスポーツ利用に適性があると考え

バスの導入については、自前で専用車・運転手を抱えるとなると負担が大きく非効率になる可能性があるため、神姫バスとの協働の道を探るべきだろうと感じた。そして、バスの導入を検討するのであれば、その役割をスクールバスに留めず、地域の公共交通の課題と併せて検討できれば尚良い。

兵庫県三田市議会視察研修次第

と き 平成31年4月16日(火)

13:30~

ところ 篠山市役所4F 議員協議会室

1. 開会

2. あいさつ

3. 出席者の紹介

4. 研修内容

学校再編について

5. 質疑応答

6. 閉会

(篠山市出席者)

・教育委員会事務局

・ "

・

教育総務課

"

部長 稲山 悟

課長 小林 康弘

係長 田中 真紀子